

## 幼稚園を参観して、心に残った先生の子どもたちへの言葉かけや配慮など(抜粋)

## 観察したことの考察

5月11日

時刻	子どもの活動・発言	保育者の援助・発言・指導
10:50	<p>4人組の男の子たちは街を作っていたのだが、途中で作っていたものを片づけないで違う遊びを始めしてしまう。</p> <p>「まちだよ。」</p> <p>・それを聞いて、男の子4人は片づけ始めた。</p>	<p>・担任が保育室に入り、後ろの方が散らかっている様子を見て、「これじゃ、先生にはまちだか、ごみだか分からないなあ～。」</p> <p>「それじゃあ、先生にまちだかごみだかおしえて。」</p> <p>先生が「片づけなさい。」とは言わない。子どもたちが自分で考えて作るだけでなく、しっかり片づけることにも気づかせようとしている。</p> <p>・きれいに片づいたのを見て、「これどうする。」</p>
12:52	<p>・「とっておく。」と言って、うれしそうに廊下のロッカーの上まで運んで行く。</p> <p>君が急に泣き出す。</p> <p>「入れてくれない。」</p>	<p>「どうしたの。」</p> <p>「そういう時は泣かないで入れてって言うんだよ。」</p>
12:53	<p>・先生の前にいた一番前の子どもたちが 君のために、いすを動かしてその場所をあけてやる。</p>	<p>「先生がお部屋に入ってきたら、いっぱいお絵かきをした紙が落ちていました。これはだれのかな</p>

<p>「 ちゃんと ちゃん。 」</p> <p>「いる。」</p>	<p>あ。」</p> <p>「二人は、この紙はいるの かな。」</p> <p>「それじゃあ、大事にして ね。」</p>
-----------------------------------	---

(幼稚園教員の話から)

小学校の先生が幼稚園の参観をすると、こんなこともできるんだあと、驚かれることが多い。掃除、給食当番などの子どもたちの実態を、幼稚園から小学校に発信することも大切である。

5月14日

時刻	子どもの活動・発言	保育者の援助・発言・指導
11:25	<p>・子どもが2人でいくつかのいすを運ぶ。</p> <p>先生は、友だちと一緒に遊んだあとの片づけを、子どもたちみんなで最後まできちんとさせるように努めていた。そのための声かけがしっかりできている。先生から片づけを一方的にお願いするのでなく、「頼んでいいかなあ〜。」と、相手の都合や気持ちを大切にしている。子どもたちが主体的に片づけられるよう、言葉かけをしていた。</p>	<p>「 君、 君、 君、ガソリンスタンドのお 片づけできるかなあ〜。」</p> <p>「頼んでいいかなあ〜。」</p> <p>「 君いつからそんな力 持ちになったのかなあ、先 生びっくりだなあ。」</p>

(幼稚園教員の話から)

A先生「登園後、意識が遊びの方に行っていて、いちご、野菜に気づかない子どもたちには、こちらから『土がかわいているよ。』とか、『赤くなっているいちごは食べられるよ。』と声をかけた。その声かけで、水くれに気がついた子がけっこういた。休みの次の日など土がかわいており、だんだん自分たちで気がついて水くれができるようになるといい。」

B先生「先生からいちごや野菜の話題をふってやるのが大切だと思う。『青かったいちごが赤くなったよ。』とか、におい、色、葉っぱの大きさなど、子どもたちが興味をもつよう声かけをした。」

「水をやりなさい。」ではなく、子どもたち自身に気づかせる言葉かけが興味・関心をもたせ、主体性を伸ばすためには大切だと思う。日々意識していないと、こんな言葉かけは身に付いていかないだろうと感じた。

5月17日

時刻	子どもの活動・発言	保育者の援助・発言・指導
9:43	<p>「まだ、遊びたい。」</p> <p>すぐに遊びを中断させるのではなく、子どもたちが納得できるように、10分ぐらい前に声をかけるのが技術だと感じた。</p>	<p>「歯医者さんが来るけど、そろそろ片づけた方がいいかなあ。」</p> <p>「じゃあ、もうちょっとね。長い針が10になるまでね。」</p>
9:45	<p>「先生、かごめかごめをやりたい。」</p> <p>先生が子どもたちに声をかけるのではなく、言い出した子に集めさせるのも、主体性を育てるためにはよい方法だと感じた。</p>	<p>「一人ではできないから、お友だちを誘ってきて。」</p>
9:50	<p>保育室の床に白いテープで丸が書いてある。先生の前に集まった時にはその中に座る約束ができていようだ。先生の話がきちんと聞けるように、集まるための工夫ができていいる。</p>	<p>「ちゃん、すごくいいのできたけど、歯医者さんが来るからそろそろ片づけ始めてくれる。」</p> <p>まず子どもをほめてから指示を出している。</p> <p>「みんなトイレのスリッパ揃えてきたかな。トイレで手を洗ってきたかな。トイレのばい菌持ってこないでね。」</p> <p>「手を洗ってきて。」ではなく「トイレのばい菌を持ってこないでね。」と、言葉かけをしている。</p> <p>・「小さい声で話をするよ、小さい声で話をするよ。みんなよく聞いてね。」と言ってから、歯科検診の説明をする。</p> <p>小さい声で話をしたが、子どもたちの反応はとてもよく、話をよく聞いている。</p>
11:20	<p>さんは引き出しに自分のかいた絵を入れて、クレヨンをとろうとしたが、</p> <p>「先生、紙がいっぱいで入らない。」</p>	<p>「紙をいっぱいにしたのはだれかな。お片づけして持って帰ってね。」</p> <p>自分で片づけられるように、言葉か</p>

11:25		<p>けをしている。</p> <p>「さん、クレヨンが片づけてほしいよ~と言っているよ。クレヨン片づけてほしいな~。」</p> <p>「さん、さんにクレヨン出っぱなしだよって教えてあげて。」</p>
-------	--	---

6月 6日

時刻	子どもの活動・発言	保育者の援助・発言・指導
10:32	<p>保育室の中が、きれいに片づけられたので机といすをおやつが食べられるように移動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭では、まだ使った道具をきれいに洗っている女の子が1人いるが、ほとんどの子は石けんで手洗いをして中に入ってくる。</li> <li>・泥団子を作っている2人の男の子は、まだ遊んでいる。</li> </ul> <p>・先生の声聞いて2人はやることに気がついて、急いで靴を下駄箱に入れ、手を洗い始める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泥団子を作っている2人の背後から</li> </ul> <p>「さあ、手も洗ったし、エプロン片づけたし、おやつを用意しようかなあ。」</p> <p>2人に「片づけなさい。」と言うのではなく、近くに寄って、大きなつばやきでおやつ時間だということ教え、あくまでも子どもたちの意志で動き始めさせている。また、いつまでも遊んでいる2人を注意するのではなく、時間ぎりぎりまで遊ばせたところも良かった。</p>
10:53		<p>あつという間に食べてしまった男の子を見つけて</p> <p>「もう食べちゃったん、味わわなくちゃね。ぼくなんかこれから味わうんだよ。」</p>

	先生が「こうしますよ。」と言うことで、子どもたちにどのように食べるのがいいのか、考えさせている。
--	--

7月 6日

時刻	子どもの活動・発言	保育者の援助・発言・指導
13:15	・子どもたちは先生の前に椅子を丸く並べて座り、身乗り出すようにして話に耳を傾けている。	<p>今年初めての本の貸し出しの説明をする。</p> <p>・みんなに聞いてもらうためにひざをついて目線を低くして、小さな声で話す。</p>

7月 9日

時刻	子どもの活動・発言	保育者の援助・発言・指導
11:20	<p>「12日。」「11日。」</p> <p>いつから練習を始めればいいのかを子どもたちに考えさせることによって、生活の中で数を学ばせている。</p> <p>「たぶん。」「たぶん。」「た～ぶん。」</p> <p>「できる。」「できる。」「できる。」</p> <p>「年長さんだからできる。」「頭で考えられるもん。」</p>	<p>夏祭りのおみこしの説明をする。</p> <p>「12日におみこしをかつぐ練習したいんだけど、いつまでに仕上げればいいのか。」</p> <p>「11日までにできるかなあ。」</p> <p>「みんなできそう？」</p> <p>「じゃあ明日と次の日、みんな頑張って作ろう。」</p> <p>「みんなのおみこしなんだから、みんなの力で作ってくださいね。」「先生は力を貸すだけ、みんなできるかな。」</p>

12:57

・みんな先生の顔に目を向けて、しっかりお話を聞いている。

「おぼえてる。」「おぼえてる。」「おぼえてる。」

「よごれてもいい服。」

「長ぐつ。」

「君いいねえ～、先生のお話がすぐに頭の中に入っていくよね。」

・先生が前かがみになって、子どもたちの顔を見回しながらお話をしている。

黙って指折り数えるとか、子どもたちの顔を見回しながら前かがみになって話すとか、子どもたちに話を聞かせるための色々な技術を持っている。また、おみこし作りも子どもたちが主体的に取り組めるように言葉かけをしている。

「じゃあひとつお話をします。年中さんの時にジャガイモ植えたの、覚えていますか。」

「みんなの植えたジャガイモが大きくなったので、明日ジャガイモ掘りをします。」

「そうです、そのとおり。今、君が言ってくれたようによごれてもいい服、さんが教えてくれたように長靴を用意してください。」

まだ先生が話をしている途中で子どもたちが話し出したのに、怒るところかほめている。子どもたちの発言を大切にし、意欲を育てようとしている。

<p>・みんなよく話を聞いている。君は身を乗り出して聴いている。</p>	<p>「みんなにはおたよりを配りませんので、お家の人によくお話をしてください。」</p> <p>子どもたちが心配になっておたよりを配りがちであるが、子どもたちを信用して自分で家の人に話すように言っている。子どもたちに責任をもたせ、先生から聞いたことをしっかりと家の人に伝えることが、子どもたちの自尊心を大切に、意欲を育てることにつながるのだと感じた。</p>
--------------------------------------	---

11月13日

時刻	子どもの活動・発言	保育者の援助・発言・指導
10:28	<p>保育室では、昨日のお絵かきの続きをしている。大きな紙に一人一人が思い思いに迷路をかいたり、家をかいたりしている。</p> <p>「君がオレンジでぐちゃぐちゃかいたから。」</p> <p>「火。」</p> <p>「うん。」</p>	<p>・君を見て、</p> <p>「どうしたん、怒っている顔しているんだけど。」</p> <p>表情を見ただけで、子どもの気持ちを察して声をかけているところがすごい。</p> <p>「君、どうしてオレンジでぐちゃぐちゃかいたの？」</p> <p>「君お絵かきのお手伝いしようとしたの？」</p> <p>「君、ちゃんとオレンジで塗っていいか、みんなに聞いた？」</p> <p>「ぐちゃぐち</p>

	<p>「色を塗ればいい。」</p> <p>「消せばいい、消しゴムで。」</p> <p>「白い色を塗ればいい。」</p>	<p>や塗る前にみんなに聞いてからにしようね。」</p> <p>子どもたちの話を聞いて原因を確かめ、2人が納得できるように援助している。</p> <p>・5人みんなに向かって「じゃあどうしたらいいかね。」</p> <p>「消えないんじゃない？」</p>
--	---	--

ルールやきまりは、年齢と共にだんだん増えてくる。何のためにルールやきまりがあって、どういう力を身に付けさせたいのかを教員が考えておかなければならない。何でこういうふうにするのかな、どうして必要なのかな、そういうふうにしてよかったな、こういうことをこれからもやっていこうと、子どもたちが考えられるようなルールやきまりでなければならない。

子どもたちへの言葉かけは、言い方で子どもたちの受け止め方がずいぶんと変わってくる。例として

- ・「トイレのばい菌はもってこないでね。」 トイレのあとに「手を洗ってきた？」
- ・「先生、ありがとうって言ってもらって、とってもうれしかったんだよ。」 「ありがとう。」
- ・「これ、たのんでいいかなあ。」 「これやっというて。」 「これ片づけというて。」
- ・短縄のしぼり方で、「自分のできるしぼり方でいいんだよ。」 「ここをこう折って、こう折って、ここにこう入れて。」などこと細かに教える
- ・「これじゃ先生は街だか、ごみだかわかんないよ。」 「散らかっているから片付けて。」 「いらぬ物は片付けて。」